

戦争

証言

2025

戦後80年を経てもなお終わらない戦争

私たちの青春は戦争の中にありました。80年経った今もその記憶は消えません。
次世代の方に、この体験と苦い思いを語り伝えたい……

戦争を経験された方の貴重な体験を聞く機会が少なくなりつつあります。
滋賀県平和祈念館では、貴重な戦争体験者の話を映像として残すとともに、
戦争の記憶を語り継ぎ、平和の尊さを学ぶための資料として「証言映像」を作成しました。



滋賀県平和祈念館

戦争体験者 証言映像 戦争証言2025 【映像内容】

映像 1 満蒙開拓青少年義勇軍からシベリア抑留まで【証言者】小門義男さん（終戦時19歳）【19分】



小門さんは満蒙開拓青少年義勇軍として満州（中国）へ行きます。そこでは土地を開墾して野菜作りを行いました。しかし戦況が悪化すると兵隊への召集があり銃を持って陣地作りをさせられます。やがて終戦となり帰国できると思っていましたが、シベリアに抑留されます。空腹に加え、冬場は森林の伐採、夏場は線路敷きなど、厳しい労働が課せられました。

映像 2 朝鮮半島で生まれ育って【証言者】前田千代子さん（終戦時17歳）【13分】



前田さんは朝鮮半島で生まれ、育ちました。ご両親は大きな果樹園を営みました。現地の女学校に通っていましたが、戦争が長引くにつれ兵士を助ける看護の勉強をしました。卒業後も現地で働くこととなります。そこで経験したことは朝鮮の方との温かい交流でした。帰国に際してはお米をくれたり、「帰らなくていい」と引き留めてくれたりと周囲の思いやりに支えられました。

映像 3 薬学専門学生の経験した戦争【証言者】森野久章さん（終戦時17歳）【14分】



お父さんの薬屋を継ぐために森野さんは京都の薬学専門学校を受験し合格します。しかし勉強どころではありませんでした。建物疎開のための勤労奉仕。食糧調達のための軍事訓練。大阪の製薬会社への勤労動員ではアメリカ軍の空襲にも遭いました。やがて終戦になりましたが滋賀の自宅まで帰る汽車が思わぬ方向へ走りだします。

映像 4 女学生が過ごした青春と戦争【証言者】柿本多映さん（終戦時17歳）【14分】



寺院に生まれた柿本さんは両親の教育から自然の豊かさを学びます。女学校時代の勤労奉仕の稲刈り、京都の高等専門学校に進学してからは工場への学徒勤労動員を体験します。その後、学生時代を通して戦争の不条理について深く考えさせられました。柿本さんは多感な青春時代を振り返り、次世代の若い人に「何事も諦めないこと、心の持ちようが大事」だといいます。

映像 5 東洋レーヨン滋賀工場を襲った模擬爆弾【証言者】池田宏さん（終戦時16歳）【15分】



瀬田工業学校の在学中、池田さんは学徒勤労動員で“東レの工場”に行っていました。昭和20年(1945)7月24日工場へ出勤中に空襲警報のサイレンが鳴ります。池田さんは、東レのすぐそばにある北大路御霊神社にいました。東レに落とされた爆弾は、原子爆弾投下訓練用の模擬爆弾（通称「パンブキン爆弾」）で、多くの犠牲者をだします。池田さんは、その様子を近くで目撃しました。

映像 6 疎開先にも追ってきた戦争【証言者】野村宗一さん（終戦時9歳）【14分】



昭和19年(1944)兵庫県川西から滋賀に縁故疎開をしてきた野村さん。しかし勉強するための鉛筆もなく、食糧難にもなり運動場が畑になっていました。やがて空襲を経験し、アメリカの戦闘機と日本の戦闘機の空中戦を目撃します。墜落したアメリカの戦闘機を見た野村さんは操縦席に缶詰が沢山あったのを記憶しています。日本の戦闘機の操縦士は戦死し、その石碑が今も残っています。

【戦争証言】シリーズのご紹介

※2014年から計10作品あります



【戦争証言2017】



【戦争証言2018】



【戦争証言2019】



【戦争証言2020】



【戦争証言2022】



【戦争証言2023】



【戦争証言2024】

【映像の貸出し・お問い合わせ先】

映像の貸出しについてのお問い合わせは滋賀県平和祈念館までお願いします。また貸出しの本数に限りがあります。ご了承ください。



滋賀県平和祈念館

〒527-0157 滋賀県東近江市中野町431番地
開館時間 9時30分～17時
休館日：月曜日・火曜日（祝日にあたる場合は開館）
年末年始
その他、業務の都合により休館する場合があります
電話番号：0749-46-0300
FAX番号：0749-46-0350
E-mail：heiwa@pref.shiga.lg.jp